

「テレワーク川柳」 作品解説

【社会】

ICT（情報通信技術）を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方であるテレワークは、「一億総活躍社会」の実現に寄与し、「働き方改革」にも有効な手段として期待されています。

「あきらめた 夢よみがえる テレワーク」のように、育児や介護など様々な理由で職を離れた人たちが、テレワークによって再び活躍の場を得ることも可能になりますし、「埋もれてた 才能ワクワク テレワーク」（グランプリ賞作品）のとおり、埋もれていた様々な才能がテレワークによってどんどん湧き上がり、ワクワクしながら仕事をする人が増えれば、労働力人口の減少に悩むわが国の社会にとって、こんな素晴らしいことはありませんね。

また、出産した女性が職を辞めずに済む、介護をしなければならなくなった男性・女性が仕事と介護の両立ができるようになるなど、テレワークは人の人生を変えるほどの大きな存在になり得ます。「夫より 私の人生 変えたかも」は、出産・育児・介護などライフイベントが多い女性がいかにテレワークで助かるかをあらわした作品ですが、女性だけでなく、男性もテレワークを取り入れ、人生を変えていきましょう。

人生の選択肢を増やせるテレワークにより「生き方も 働き方も 選べる世」ということで社員は満足し、企業もより良い人材を得ることができ、Win-Winの状況もなれるということです。

一方、テレワークは、育児や介護をする人のみならず、高齢者や障がい者の方など様々な人に活躍の場を提供できるものであり、「テレワーク 社会参加に 枠は無し」と言えましょう。そして、「一億の 人の数あるストーリー」のとおり、テレワークは、一人ひとりの人が、それぞれの状況に応じた生き方や働き方をする手助けとなるものとなります。これがライフコース多様化というものです。

こうしたテレワークを政府も積極的に推進しようとしています。かつて政府が主導したクールビズは、今では普通のものとして定着しました。

「クールビズ 次なる主役は テレワーク」（準グランプリ賞作品）のとおり、テレワークも広く社会に普及・定着させていきたいものです。

<コラム① テレワークが貢献できる課題>

テレワークは、社会、企業、就業者の様々な課題に対し、プラスの効果をもたらします。

育児・介護中の就労継続が可能となり、高齢者や障がい者なども含めた様々な人材に活躍の場を与えることができるなど、まさに「**テレワーク 総活躍の 鍵握る**」と言えましょう。

国にとっては、少子・高齢化社会、労働力人口の減少などに対する有効な手段となるだけでなく、地方創生という観点からも、テレワークは重要な役割を担える手段です。

ICTの活用により、地方でも都市部と同じように仕事ができる環境を構築し、都市部から地方への人と仕事の流れを作り出す「ふるさとテレワーク」の取組が進められています。

「**少子化も 過疎も決め手は テレワーク**」ですね！

また、近年、地震や台風・大雪などの自然災害が多発していますが、交通機関がマヒして出勤が困難な状況になっても、テレワークができれば、問題なく事業を継続することができます。「**災害時 転ばぬ先の テレワーク**」のように、BCP対策としてもテレワークの導入効果は大きいと言えます。

更に、「**エコでイコ ゼロ円で済む 通勤費**」のとおり、テレワークが進めば、交通渋滞やラッシュの軽減に寄与できるとともに、CO₂削減など環境問題にも貢献できます。

2010年の東京オリンピック・パラリンピックでは、世界中から大勢の人が東京に集まり、街も交通機関も人で溢れることが予想され、交通対策は重要な課題と言えましょう。「**五輪時の 交通対策 これ一番**」のように、五輪期間中に皆がテレワークを行えば、そうした課題への有効な対策になるかもしれませんね。

テレワークの果たす役割は、益々大きくなっていくと思われれます。

【働き方（企業・仕事）】

テレワークは、ICTを活用した柔軟な働き方であり、ワークスタイル変革の重要な手段の一つと言えます。資料や情報のデータ化が進めば、離れた所からでも情報にアクセスして効率的に仕事を行うことが可能となります。「ペーパーレス化」が進めば、コストの削減となるばかりでなく、社員の仕事のやり方にも変化が現れるでしょう。是非、「紙ってる 働き方に ITを」導入・推進して、業務を効率化したいものですね。

企業にとっても社員にとっても、大切なのは、仕事の成果です。「場所でなく 仕事にこだわる テレワーク」のように、自宅であれ出先であれ、より良い成果を上げることが重要ですし、テレワーカーはそれを目指しています。そして、「テレワーク あなたも会社も ウィンウィンね」のように、会社・社員双方にとってメリットが出るようにしたいものですね！また、テレワークの導入には経営判断が伴いますが、「踏み出した その企業から 拓かれる」のとおり、テレワークの導入を決断した企業から、テレワークのメリットを享受することができると言えます。

ただ、ここ最近、影響力のある大企業によるテレワークの導入・推進が相次ぎ、テレワークの導入は世の中の潮流になりつつありますが、「「うちもやれ」 社長ダメです 真似だけじゃ」のとおり、単に時流に遅れまいと導入しさえすればよいというものではありません。自社の実情に照らし、どのような制度が必要であり効果的であるかをしっかり検討することが大切です。何より大事なことは、テレワークで「変える」という思いですが、①まず仕事の見直しを図る、②テレワークをする社員だけではなく、社員全員が仕事の始まりと終わり、仕事の進捗状況などを上司に報告するようにしなければならない、ということも大切です。今までにこうしたことを行ってこなかった組織にとっては大改革です。

テレワークを導入・推進していくうえで、「結果出し やっと黙った アナログ派」のような、「粘土層」と言われる新しいやり方を受け入れない中高年の管理職など様々なハードルが存在し、担当者は苦勞しています。「まだ必要？ 実施理由と 対象者」のように、面倒な手続きや使い勝手の悪さが推進の阻害要因にならないよう、社長以下、皆で働き方改革を行う必要があります。

【働き方（職場）】

テレワークは、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方です。

在宅勤務のみならず、サテライトオフィスや喫茶店、移動中の電車の中や空港など、様々な場所が仕事場となり得ます。「いきつけの カフェのソファが 新オフィス」のように、ゆったりくつろげる心地良い空間が仕事の質を高めしてくれるかもしれませんね。

また、場所を選ばないテレワークであれば、「Uターン した山奥だって 会議室」のように、故郷の山里で仕事をすることも出来ますし、「地方から 世界を動かす テレワーク」のように、地方にしながら世界を相手にした大きなビジネスをすることも可能です。

テレワークは、地域活性化の手段としても期待されており、「温泉がある」、「サーフィンが出来る」などの理由で地方に移住する人も出てきています。人は、環境が変わることにより、斬新なアイデアが生まれるようです。「ひらめくね！ 違う世界に 飛び出すと」のように、例えば、緑に囲まれた公園のベンチで良い考えが浮かぶこともあるでしょう。オフィスにフリーアドレスを導入し、社員に積極的に外に出ることを勧めている企業もあるようです。

自宅空間も立派なオフィスです。たとえ、狭い部屋であったとしても、そこは誰にも邪魔されない堂々たる個室。「サテライト 支社長気取る 四畳半」の気分になれますね。

そして、何より、在宅勤務は長い通勤時間と無縁。どんな我が家も、「通勤は 徒歩ゼロ分の 一等地」であり、「テレワーク ラッシュも ダッシュも 無い通勤」で、通勤疲れもなく快適な気分で仕事ができるのも、テレワークのメリットと言えましょう。

<コラム② テレワークとメイク・身だしなみ>

テレワークの良さは、メイクをしたり服装を整えたりしなくても、ラフな恰好で仕事ができる気安さにもあると思います。

ただ、女性の場合、ノーメイクでテレビ会議に参加することは、抵抗があるもの。「**テレ会議 オフィスよりも デカマスク**」と、つつい大きなマスクなどで顔を隠したくなるものです。

今年の百選作品に、「パソコンに「**すっぴんです!**」と エラーでる」という作品がありました。そうした悩みを背景に、ある大手化粧品会社が、すっぴんでも自動的に化粧を施してテレビ会議に映し出すアプリを開発して話題になりました。

「**ノーメイク 化粧アプリで テレ会議**」が可能となり、女性にとっては朗報かもしれませんね。

一方でテレビ会議では、「**女優並み 照明施し 出る会議**」のように、顔の写り映えを気にしたり、暗くて相手に自分の顔が見えにくくならないよう照明を施したり、といった苦勞もあるようです。

コミュニケーションツールとして効果の高いテレビ会議ですが、その利用時には、表には見えない様々な苦勞が伴うものなのですね。

「**洋服は パジャマとジャージで 事足りる**」のように、ラフな恰好で仕事ができる気安さはテレワークの利点であり、化粧アプリに男性の髭剃り機能を追加してほしいという意見もあるとか。

ただ、ややもすると、「テレワーカーはラフな恰好で仕事をしている」⇒「仕事の質が低い」といった誤解や偏見を持つ人がいないとも限りません。

「**自宅でも 髭剃り・たしなみ する矜持**」のように、テレワーカーは、実際の身だしなみはともかく、少なくとも精神的には、きちんと身なりを整え、背筋を伸ばし、オフィスで働く人同様の、あるいはそれ以上の緊張感を持って仕事をする、そんな自負心・プライドと責任感を持っているのではないのでしょうか。テレワーカーの自覚と責任、そして職場の人たちとの信頼関係が、テレワーク実施のうえで重要ですね。

【上司部下・コミュニケーション】

テレワーク制度を導入・実施していくうえで、上司が部下を適正にマネジメントし、評価すること、またテレワーカーが職場の人たちと十分なコミュニケーションを取することは、重要な課題です。テレワークを実施したことのない人は、テレワーカーが楽をしているように思いがちですが、そのような人たちは是非テレワークをやってみてください。むしろテレワークこそ真の仕事ぶりが浮き彫りになります。

特に、「上司こそ やって欲しいな テレワーク」とあるように、「粘土層」と言われる管理職層がテレワークの効果を十分理解することは、テレワーク成功の鍵と言えます。テレワーク導入で成果を上げているある企業は、敢えて管理監督者を中心にテレワークのトライアルを実施し、テレワークの効果を実感させたそうです。

実際にやってみれば、「管理者の オレ在宅でも 回るとは」のように、管理者が在宅勤務をしても、メール等で必要な連絡は取れ、職場は回るものです。もっとも、それが日頃から管理者は大した管理を行っていないことの裏付けとならないよう、管理者は身を引き締める必要がありますね。

コミュニケーションについては、「オフィスでも メールで会話 同じこと」のように、最近ではオフィス内でも対面で話をせず、メールで会話をする人が増えており、むしろ、テレワーカーの方が意識して連絡を取り合うため、コミュニケーションが充実するという面さえあるようです。また、「気遣いメール 上司の良いところ ちと分かり」のように、上司がテレワーカーに対し、細やかな気遣いをすることも、お互いの信頼関係を構築するうえで重要なことですね。

テレワークのコミュニケーションツールとして、テレビ会議は重要です。「君の名は テレビ会議で 知りました」のように、仕事仲間の名前をテレビ会議の画面表示で知るということも起こり得ることですね。様々なコミュニケーションツールを上手く使いこなしてテレワークの効果を高めていきたいものです。特に外国に関連会社があり、しょっちゅう連絡している人たちは、会議でも連絡でもメールが主なので、日本ほど会うことを必要としないようです。このようなことも考えると、組織の大改革、働き方改革という意味が、改めて大きな課題として見えてくるでしょう。

【自覚&責任】

テレワークは、オフィスから離れて仕事をするため、業務を行う本人の自覚と責任が求められます。「居なくても 結果は出すよ テレワーク」のとおり、テレワーカーたちは、職場に居ない分、より確かな成果が出せるよう努力していると言えます。

会議も同じこと。「オフィスより 寝る人いない テレ会議」のように、テレビ会議に参加するテレワーカーたちは、皆、緊張感を持って会議に参加していると言えます。オフィス内会議でつい居眠りしてしまう人、いませんか？それに会議が長いですよね？

テレワークでは、ワーカーたちは管理者その他周囲の人の目から離れ、ある意味、自分の責任で自由に仕事ができます。仕事をしている様子や経過が見えにくい分、「経過より 結果が大事さ テレワーク」のように、しっかりとした結果を出す事が重要になってきます。

自由に仕事ができる、ということは、裏を返せば、しっかりした自己管理が求められる、ということになります。「オンとオフ 自分でつくる テレワーク」のように、自らの作業スケジュールをきちんと立て、公私のメリハリをつけることも重要です。

こうした自己管理が出来る人は、プライベートでも充実した生活を送ることが出来るのではないのでしょうか。プライベートも含めた様々な人生経験が仕事をするうえでもプラスに働くのではないのでしょうか。「できる人家も仕事も 重んじる」のようでありたいものですね。

【育児・介護】

少子高齢化が進む日本社会において、育児・介護と仕事の両立は大きな課題ですが、勤務場所の制約がなく、時間的にも柔軟な働き方ができるテレワークは、その解決手段の一つとして有効です。

育児や介護のためにテレワークをする人にとって、職場の人の理解と信頼関係は非常に重要です。「介護する 親の様子も 聞く上司」のように、上司が介護する部下の家庭事情に対しても、一定の理解と思いやりを持って接してあげることで、部下も肩身の狭い思いをせずに仕事をする事が出来るようになります。ただ、一方で、個人の事情にあまり深入りしすぎない配慮も必要ですね。

テレワークは、自らが怪我などの治療や通院を行いながら仕事をする事も可能にします。「病室で 治療と仕事 テレワーク」のように、足を骨折して通勤が出来なくても病室で仕事出来るなどの効果があります。

育児をしながら働く人は、様々な苦労を経験しながら仕事をしています。時には、「おっぱいを ふくませながら キーボード」という状況も起こるかもしれません。朝食を用意し、子どもの朝の支度を済ませ、「行ってきます わが子見送り さあ仕事」と、スイッチを家事・育児から仕事モードに切り替えながら仕事をしている人も大勢いることでしょう。

また、テレワークであれば、「幼稚園 緊急電話に すぐ対処」のように、子どもが幼稚園で怪我をしたり具合が悪くなったり、といった緊急の場合にも一早く対処することが出来るため、親子ともども安心感が得られます。テレワークは、こうした親子のつながりという観点でも効果を持っていると言えましょう。

【家庭（子ども）】

テレワークは、日頃、働いている姿を子どもに見せる機会が少ないお父さんにとっては、仕事姿を子どもに見せる機会ともなりましょう。「**子が見てる 今日逆転 参観日**」のように、子どもたちに見つめられながらの仕事は、妙に緊張してしまうものですね。

でも、子どもや家族と同じ家の中で仕事が出来るということは、「**テレワーク 隣で宿題 するわが子**」のように、子どもとのつながりが実感できて、しみじみとした喜びを感じられるものにもなるでしょうし、「**きっかけは 子供のヒントで いい仕事**」のように、お昼ご飯中の子どもとのちょっとした会話の中から仕事のアイデアが思いつく、という効果もあることでしょう。そうした精神面や発想の広がりなど、様々な面でテレワークの効果は期待できるのではないのでしょうか。

「ファミリーデー」と言われるような職場見学を行う企業や官庁なども増えていると思います。子どもや家族がお父さんやお母さんの職場を見学することは貴重な経験になりますが、「**徒歩5秒 父のオフィスを 見学に**」のように、在宅勤務の場合は、子どもは、より身近に親の仕事ぶりを見ることが出来ます。普段の家庭での姿とはまた違った、本気で仕事に取り組む姿を子どもに見せることができ、子どもも学ぶことが多いと思います。

ただ、「**怒ったり お願いしたり 詫びてたり**」のように、そんな時に限って、トラブル発生で職場やお客様に電話をかけまくり、怒ったり、お詫びをしたりする姿を子どもにポカンと見られることに……。でも、仕事をするということは、そういうことではないのでしょうか？ 順調なことばかりではなく、様々な苦勞も伴うということを、子どもたちはきっと学んでくれるはずですよ。

【家庭（生活）】

テレワークをやっていると、家庭やご近所付き合いなど、生活の様々な場面においても、その影響は現れてきます。「ママ友に 少し自慢の テレワーク」のように、子どもの幼稚園のママ友たちとの会話の中でも、テレワークで育児と仕事の両立をしていることは誇らしい話題になるでしょうし、ママ友たちもそれに共感したり刺激を受けたり、ということになれば、素敵なことですね。

お父さんがテレワークの日は、「テレワーク 家族みんなが ワークワク」のように、仕事が終わった後、すぐに家族みんなで夕食を食べることができるなど、家族にとっても、ワクワクする日なのではないでしょうか。家族の会話もきっと弾むことでしょうね。

また、「通勤が 無くなり増えた 家事参加」のように、お父さんは、通勤がなくなってできた時間を家事に向けることができるようになります。男性も家事や育児などに参画することが当たり前のようになってきた時代。テレワークの効果が発揮できる場面です。

一方、家で仕事をしていると、職場にはない環境ゆえの出来事もあるかもしれません。

「**工作中 子猫が膝で 昼寝する**」・・・起こさないように、そっと気遣いながらも集中して仕事をやらなければなりません。しかし、ある研究結果では、猫によって癒されることが多く、心筋梗塞の割合も半減する等、様々な結果が出ています。

テレワークをやっていると、世間の目も気になるところです。ご近所の人に平日の昼間に会い、気恥ずかしい思いをした人もいるのではないのでしょうか。でも、テレワークが世の中に広まることで、堂々と「テレワークです」と言えるようになりますし、「**おや、どうも**」 隣の旦那も **テレワーク**」のように、買い物に出かけようとしたら、玄関先で隣の旦那さんとバッタリ出くわすという状況も起こってくるでしょう。

テレワークが当たり前のものとして世の中に定着することになるよう、我々関係者も努めていきたいと思えます。